

主 題：あなたは神を憎んでいる
聖書箇所：ローマ人への手紙 2章5節

今日は、ローマ人への手紙2章5節を見ていきます。あなたは自分が神のさばきを受ける運命にあるということをご存じでしょうか？今、あなたは永遠の火と硫黄の燃える地獄へと一歩ずつ向かっているのです。しかも、確実に…。神はそのことを告げるだけでなく、その理由までも明らかにしておられます。なぜ、あなたはそのような運命を辿っているのか？今日見るローマ2：5にはこのように記されています。後半のところに「…御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの現れる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。」と。このように聖書の中には神が私たちへの警告としてさばきがあることを告げています。

◎「さばきの日」：ここには「さばきの日」についてこのように教えられています。それは「御怒りの日」であると。このときに神に対する人間の不従順、神に逆らって来た歩み、それに対する神の怒りが明らかに示されるのです。その日が必ずやって来ることを教えるのです。

◎「さばき」とは？：いったい、何のことを言っているのか？この「さばき」は何のことか？私たちは日々いろいろなことを経験しますが、そのときの神の懲らしめでしょうか？そうではなくて、これは「最後の審判」のことです。最後に訪れるさばきのことがここに記されているのです。私たちが勘違いしてはいけないのは、神は私たちの罪をただ見過ごしておられないこと、それを見て見ぬ振りをしておられるのではないということです。神はすべてのことをご存じです。そのことがここに記されているのです。ですから、私たちが先ず覚えることは「神は罪に対して怒っておられる」ということです。その怒りを明らかに示されるときが来るということです。

◎「さばき」について：パウロはここでこの「さばき」について細かい説明をしています。

1. 「正しいさばき」である = この「正しい」ということばの前に「～による」「～に従う」という前置詞が付いています。ということは「正しさに基づいている」「真実に従って」「真理に沿って」と、つまり、神のさばきは神が気まぐれで与えるようなものではない、また、ときに神がいろいろな証人たちに「いったい何があったのか？」と聞いた上で下すさばきではないということです。神が為さるさばきは真実に基づいたものです。なぜなら、神はすべてのことをご存じだからです。

神がどのようなお方であるかは私たちはもう聖書から学んでいますから、十分理解しています。神はすべてのことをご存じです。私たちの説明を聞かなくても、私たちがそれを口に出さなくても、神はもうすべてのことをご存じです。あなたの考えていることも、語って来たことも、あなたがやって来たことも、そのすべてをご存じです。ですから、神がさばきを下されるとき、それは正しいものです。

「さばき」ということばは「有罪判決の宣告」です。こういうことです。最後の審判の場に就いたときに、罪人たちはそこで神から有罪判決を受けるのです。そして、神はあなたがなぜ有罪なのかを明らかにされます。黙示録には最後の審判の様子が記されていました。数々の書物が開かれ、その一つは「いのちの書」です。そこに名が記されていなければその人は永遠の滅びに至るのです。また、ひとり一人の人生が記されている書物もあります。私たちが生まれてから主にお会いする時まで、その間に何をしていたのか？どんなことを考えて来たのか？どんなことを想像したのか？どんなことを口から発して来たのか？そのすべてのことが記されているのです。それらが明らかにされたときに私たちはだれ一人としてこの神に反論することはできません。

もちろん、開かれたもうひとつの書物が聖書であることは言うまでもありません。聖書の教えに従って来なかったこと、そのことがそのときに明らかにされ、そして、それがいかに大きな罪であったかに気付くのです。ソロモンはこのように言います。伝道者の書12：14「神は、善であれ悪であれ、すべての隠れたことについて、すべてのわざをさばかれるからだ。」と。神の前に隠しおこせるものは何一つないのです。あなたのすべてをご存じの神があなたの裁判官なのです。

ですから、神が為さるさばきは「正しい審判、正しいさばき」であること、すべてをご存じである全知の神によるさばきです。だれ一人としてこの方の前で反論はできません。

2. 自分のために積み上げている = 「御怒りを自分のために積み上げている」とあります。「積み上げる」とは「蓄える」ことです。農作物を蔵の中に蓄えていくようなことです。ですから、イエスが私たちに生を与えてくださってこの世に生まれて来ましたが、そのときから私たちは神に逆らい続けて来たのです。その神の怒りを私たちは積み上げているのです。怒りの貯蓄のようなものです。それらをすべて精算する日がやって来るのです。同じソロモンは伝道者の書11：9で「若い男よ。若いうちに楽しめ。

若い日にあなたの心を喜ばせよ。あなたの心のおもむくまま、あなたの目の望むままに歩め。…」、好きにしないで、好きに生きていい、やりたいことをやればいい、自分の肉の欲することをやればいいと。なぜ、ソロモンはこのようなことを言ったのか？このような生き方を勧めているのではありません。罪人はこういう生き方を選択するという事です。神を除いて神を無視して生きていく、そういう生き方を選択するのです。そこでソロモンは「好きなように生きればいい。あなたがそれを選択しているから。」と言います。そして、こう言います。「…しかし、これらすべての事において、あなたは神のさばきを受けることを知っておけ。」と。

皆さん、私たちがしっかり心に刻んでおかなければいけないことは、私たちがしたことについて、そこには責任が生じるということです。私たちは神に背いて神に逆らって神を無視して、自分の好きなように生きる人生、そこに本当の幸せがあり楽しみがあると私たちは騙されながら、自分本位の生き方を継続するなら、覚えておかなければいけないことは、あなたは神の怒りを蓄えているということです。蒔いた種は自分で刈り取らなければいけないのです。

ローマ2：6には「神は、ひとりひとりに、その人の行いに従って報いをお与えになります。」とあります。ソロモンだけではありません。みことばがちゃんと私たちに教えていることは、あなたは自分の行ったことについてあなた自身がその報いを受けなければならないということです。あなたの人生の清算はあなた自身がするのです。だれかのせいにはできない、あなた自身の選択が神の前で問われるのです。だれ一人逃れることの出来ないそのときに、すべての秘密が暴露されて、それにふさわしい報いを受けるのです。そして、その結果は、永遠の地獄に落ちるさばきです。

このさばきが確実に迫りつつあるということです。でも、このようなさばきの警告を聞いてもある人たちは「私は何も悪いことはしていません」と言うでしょう。「なぜ、私のように真面目に生きて来た者が永遠のさばきに至るのか？」と。確かに今、悲しいことに、多くのキリスト教会、この日本においても、永遠のさばきとか永遠の地獄について語る教会はどんどん減っています。考えてみてください。もし、人間が死んでそれで終わるのなら、人間が死んだ後罪のさばきが無いのなら、なぜ、イエス・キリストが来る必要があったでしょう？なぜ、イエスが十字架で死ぬ必要があったでしょう？あの歴史的な事実は私たちに「神によって罪はさばかれる」ということを明らかにしたのです。みことばが教えていることをその通り語らないことは悲劇です。みことばは今私たちが見ているように「さばきはある」と教えています。そして、そのことを警告したパウロは「なぜ、さばかれるのか？」、その理由を三つ挙げています。なぜ、あなたは永遠の滅びに至るのか？

◎なぜ、彼らはさばかれるのか？

1. 救いへの軽蔑 4節

4節「それとも、神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と忍耐と寛容とを軽んじているのですか。」、最後に「軽んじているのですか。」とあるこの動詞です。「軽んじる」とは「問題にしない、軽蔑する」という意味です。また、同じこのギリシャ語はたとえばマタイ18：10では「あなたがたは、この小さい者たちを、ひとりでも見下げたりしないように気をつけなさい。…」と「見下げる」と訳されています。ある神学者は「あるものの意義を過小評価することである」と言います。それを軽く考えることです。何を見下しているのか？何を見下げているのか？何を軽んじているのか？何を軽蔑しているのか？パウロは言います。「あなたは神の救いを軽蔑している、見下げている」と。

このように言っています。「豊かな慈愛と忍耐と寛容とを軽んじている」と。軽んじている内容を明確に教えています。三つの名詞が並んでいます。「慈愛」「忍耐」「寛容」です。しかも、これは「神のもの」とも言います。ここに「豊かな」ということばを加えています。この名詞を加えることによって、これらのことが神によって豊かに備えられ与えられるということを示しています。

・慈愛： 「慈悲、親切、好意、情け深い」と訳せます。つまり、神の罪人に対する深いあわれみのことです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛してくださった。この救いに私たちを招いてくれたのは自分の行いではなかった。神が招いてくださったのです。私たちは神に背を向け続けた。神に逆らい続けていました。でも、神が永遠の地獄に向かっている私たちを、永遠の地獄こそふさわしい私たちをあわれんでくださったのです。そんな豊かな愛を私たちは神からいただいたのです。神は私たちのようなものに深いあわれみを示してくださったのです。

・忍耐： このことばを見ると私たちは「耐えること」と考えます。もちろん、その意味でも聖書は記していますが、実は、ここでは「休戦に関することば」として使われています。クリスマス休戦というのがありました。このときだけは戦うことを止めようということです。そういう意味が含まれたことばです。敵意や敵対行為の一時的な停止のことです。ですから、勘違いしてはならないのは、神が今さばきを下されないということは、さばきがないということではないということです。なぜ、今神に逆らう罪深い者たちが楽しく生きているのか？彼らは今を楽しんだらいいではないかというメッセージを発

しています。今楽しまないことは人生を無駄にしていると言います。大切なことを忘れてしています。神は忍耐しておられるのです。さばきがないのではありません。さばきは来ます。それは今日かもしれない。神は一時的にそれを停止しているに過ぎないのです。必ず、さばきの日は来るとというのが教えです。これがここにある「忍耐」の意味です。この「忍耐」についてペテロはⅡペテロ3：9で「主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。」と記しています。神はあなたの罪をご存じです。そして、あなたには地獄がふさわしいこともご存じです。それでいて神はあなたを愛してくださりあなたをあわれんでくださり、あなたがこの救いに与るようにとそのさばきを一時的に停止しておられる、忍耐しておられるのです。あなたが救いに与るようにと神は待っておられるのです。

・寛容：三つ目に出て来ることばは「寛容」です。「辛抱」という意味です。このことばは「人を咎め立てずに赦す」ということです。このような神であることを皆さんは感謝しませんか？もし、神が私たちのような存在なら、間違いなく私たちは例外なくさばきに遭います。聖書が私たちに教えることは私たちの神は「寛容なお方」だということです。さばかれて当然の私たちがこの方に助けを救いを赦しを求めたなら赦してくださるのです。そんな神です。信仰者の皆さん、私たちはこの神ゆえに、すばらしい救いに与ったのです。私たちが救われたということは、ただ永遠の滅びから救われただけではない、私たちが今まで負っていた罪過から、罪悪感から解放されたのです。神は寛容なお方です。神はその過失を咎め立てないのです。私たちは数え切れない罪を犯して来ています。私たちにはそれが記憶に残っています。そうすると、それらの罪を思い出して罪悪感を覚えます。神はそんなものは持っておられません。神が約束された救いはそういうものからもすべて解放されることです。

人間は面白いです。神は赦したというのに「私は罪悪感を持っていないと本当に反省したように思えないから」と言います。人間は悪いことに気付いて反省したかどうかによって悪の自覚を語るからです。神の赦しは完全です。私たちを永遠のさばきから罪の力から罪の束縛からも解放してくださった。そして、私たちがずっと持ち続けて来た、ずっと悩み続けた罪悪感から解放してくださったのです。なぜなら、神は寛容なお方だからです。救いに与る者の過失を咎め立てずすべてを完全に赦してくださるのです。イザヤ書55：7「悪者はおのれの道を捨て、不法者はおのれのはかりごとを捨て去れ。【主】に帰れ。そうすれば、主はあわれんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださるから。」、これが私たちの神なのです。この方の前に赦しを求めて出て行くなればこのお方は赦してくださる。完全に赦してくださるのです。私たちがもうかつてのように罪悪感を持ちながら生きるのではありません。赦された者として生きるのです。私たちがこの世に示すのはこんな神がおられ、この神が提供してくださる救いはこのようにすばらしいものだということです。

パウロはあなたが軽蔑する神の真理はこういうことだと告げます。神はあなたに対して深いあわれみをもっておられるのに、そのことを軽蔑していると言います。神はあなたがこの救いに与るようにと期限付きでさばきを下すことを待っておられるのです。この方は私たちに本当の赦しを与えてくださるのに、その神を軽蔑していると。だから、あなたは永遠の地獄に、永遠のさばきに至るのです。

2. 救いへの無視 4節

二つ目の理由としてパウロが挙げることは「救いを無視している」ことです。救いの価値やその意義を認めようとしないのです。4節に「神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らないで、」とあります。「知らないで」ということばは「無知である、真理を知らない」という意味のことばです。「神の慈愛」とありますが、すでに見て来ました。私たちに對する深いあわれみのことです。罪人に対する神の深い愛、あわれみ、それに対してその価値を認めようとしないのです。多くの人たちはそうです。神のすばらしい救いのことを聞いても彼らはそのように思いません。かつての私たちもそうでした。救いのことを聞いてもそんなにすばらしいとは思えなかった。まさに、この人たちの問題は、神があなたをあわれんでくださっている、あなたを愛してくださっていると聞いても、それを知ろうとしないことです。彼らはそれに感謝することもない。彼らはその価値を認めようともしないのです。

「神の慈愛があなたを悔い改めに導く」とありますが、救いは常に個人的なものです。神はあなた個人に働かれます。「あなたを悔い改めに導く」というのはだれかが先頭に立って導いていくこと、つまり、神ご自身があなたを救いへと導いていってくださる、神が先頭に立って私たちを導いてくださる、そのことです。だから、パウロはこうして「あなたは価値を認めていないけれど、神のすばらしい救いの恵み、それは神があなたを一方的にあわれみ、あなた個人を神が覚えてくださる。そして、あなたに悔い改めを与えるために、救いへと神ご自身が導いてくださる。このようなすばらしい救いの恵みに対して、あなたはその価値を認めようとしない。」と言うのです。

先にも話したように、なぜ、彼らはこの救いのすばらしさに気付かないのか？皆さんもだれかに話し

てそのように感じるときがあるでしょう。「なぜ、分からないのだろうか？」と。みことばはそれに対して答えを与えてくれています。それは、神に逆らっている人たちにとっては「十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。」（Iコリント1：18）だからです。また、Iコリント2：14「生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわきまえるものだからです。」と書かれています。つまり、イエスによって備えられたこのすばらしい救いを神に逆らっている人が聞いても、それは馬鹿げたことだと言うのです。愚かなことにしか思えないのです。だから、その価値を見出さないのです。今、私たちが感謝しているのは、私たちが救いに与っているからです。救いに与ったときに私たちは、自分がどんなに大きな愛によって愛されているのか、神のあわれみはどれほど大きなものか、そして、神が払ってくださった犠牲がどんなに大きなものか、私たちはやっとそのことに気付いたのです。

でも、残念ながら、救いに至るまで、人々にとってはこの救いは自分とは無関係なのです。彼らは求めようとしない、彼らには愚かなこととしか思えないからです。なぜ、罪人が永遠の滅びに至るのか？もしかすると、この中の何人かの人たちもそうかもしれません。なぜ、あなたは永遠の滅びに至るのか？永遠の地獄に至るのか？あなたが救いを軽蔑しているからです。あなたはその救いを軽んじているからです。また、あなたは救いのことを聞いてもそこに全く価値を認めない。その救いをあなたは自らの意志をもって無視していると言います。

3. 救いを拒むかたくなさ 5節

三つ目にパウロが教えることは「救いを拒むかたくなさ」です。あなたはどのようにしてさばきに遭うのか？
1) かたくなさ：それは「あなたのかたくなさのゆえ」だと言います。5節にそのことが記されています。「ところが、あなたは、かたくなさと悔い改めのない心のゆえに」と。「かたくなさ」ということばは「頑固さ、強情」という意味です。意地を張って自分の考えや態度を変えようとしないことです。「私は今のままでいい、変わりたくない。何を言われようとも私は生き方を変えたくない。」と、そういう人が世の中には溢れています。主イエス・キリストのことを聞いても、多くの人は自分がこれまで手を合わせて来たものをこれからもそうすると言います。

人間はずっとやって来たことを継続したいものです。それを变えることに非常な恐れを持ちます。「そんなことをしたら災いが自分に訪れるのではないか？」と。今まで崇めて来たものを捨てるという恐れ、だから、多くの人たちは「今のままでいい。言われていることは分かるけれど変えたくない。」と、これが「頑なさ」です。本来なら、私たちは何が真実なのかをしっかりと吟味した上でそれを探ってそれを選択すべきです。なぜなら、私たちの永遠が掛かっているからです。自分の永遠が掛かっていることにそんないい加減であっていいはずはありません。本当にこれが真実なのか？自分が手を合わせ自分をささげている対象が神なのか？そうではないのか？と。多くの人たちはそんなことは考えません。現状のままでいいと言います。その心の状態が「かたくなさ」です。

そのような人がこの世には溢れています。旧約の時代においてイスラエルの民はそうでした。すぐに神に対して頑なになります。そこでそうであってはならないと繰り返してみことばの中で教えられました。詩篇78：8「また先祖たちのように、彼らが、かたくなで、逆らう世代の者、心定まらず、その霊が神に忠実でない世代の者とならないためである。」、ヘブル3：8「荒野での試みの日に御怒りを引き起こしたときのように、心をかたくなにしてはならない。」と、彼らは神に対して頑なになってしまっただけで神の声を聞こうとしなかったのです。彼らは自分たちの要求を求めました。「水が欲しい」、「パンが食べたい」、「肉を食べたい！」と。神に対して不平不満の連続でした。

そして、その頑なさのゆえに人々は滅んだのです。同じヘブル3：13-15にも「：13 「きょう」と言われている間に、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされてかたくなにならないようにしなさい。：14 もし最初の確信を終わりまでしっかり保ちさえすれば、私たちは、キリストにあずかる者となるのです。：15 「きょう、もし御声を聞かならば、御怒りを引き起こしたときのように、心をかたくなにしてはならない。」と言われているからです。」と書かれています。皆さん、信仰者である私たちも神が言われていることに心を頑なにしてしまうケースがあるでしょう。余りにも自分が強すぎてしまうからです。

確かに、ここでは神に逆らう人たちのことが言われています。この人たちは神のメッセージを聞いても心を開こうとしません。もう乾ききった土壌です。多少水をやってもどうにもならないようなそんな心の状態です。神のメッセージを受け入れることができないのです。少し考えてみてください。イエス・キリストを信じる前の私たちはどうでしたか？神に従うのではなく自分の思い通りに生きていました。ところが、イエス・キリストの救いに与ったから私たちは本当は変わっているのですが、ときにかつての生き方が私たちを邪魔するのです。「神のみこころに従うよりもあなたの思い通りに生きた方が楽しいのではないか？本当の満足はそこにあるでしょう？」と、今までの生き方をしようにと私たちを誘

感します。大切なことは、神に対して心を開くことです。神が言われたことを私たちは素直に謙虚に受け入れることです。かたくなな心ではなく柔軟な心で神の前に立つのです。「主よ、どうぞ語ってください。しもべは聞いています。」という態度です。箴言28：14にはこのように書かれています。「幸いなことよ。いつも主を恐れている人は。しかし心をかたくなにする人はわざわいに陥る。」と。

2) 悔い改めのない : もう一つのことばがあります。「かたくなさと悔い改めのない心のゆえに」、「悔い改めのない心」、これは神に立ち返ることを選択しない心です。「私はこれでいい、私はこのように生きていくから」と、神に対して回心することがない生き方です。自分は神に対して間違っていると気付いても神に立ち返ることをしないのです。神に背を向けていることが分かっても神に立ち返っていかうとはしないのです。「悔い改めのない心」とはそのような心です。

お気づきになったように、「かたくなさ」も「悔い改め」もどちらのことばも「心」と繋がっています。なぜ、「心」なのか？心が私たちのすべてを制御しているからです。心がかたくなならそのような行動が生まれます。心が神に対して悔い改めをもっていなければ、そのような生き方をします。こうして、みことばは「私たちの本質は私たちの心だ」と教えます。人間はおもしろいもので「したくないこと」はしません。「受け入れたくないもの」は受け入れません。そして、このように永遠の滅びに向かっている人たちに警告されていることは「彼らは自分のやりたいことをやっている」です。

こうしてパウロは「なぜ、彼らが永遠の地獄に行くのか?」、その理由を挙げました。彼らの問題、それは神のすばらしい救いに対して軽蔑していることです。神が備えてくださったこのすばらしい救い、それを彼らはその価値を認めてそれを受け入れようとしません。そして、どんなにみことばの内容を聞いても自分の心を開こうとしないで、自分のやりたいようにしています。

だから、こんな警告がヘブル書に書かれています。2：2、3「:2 もし、御使いたちを通して語られたみことばでさえ、堅く立てられて動くことがなく、すべての違反と不従順が当然の処罰を受けたとすれば、」、何のことか？旧約の時代において神は天使たちを使ってメッセージを与えました。そのメッセージに聞き従わなかった者たちは神からさばきを受けました。そのことを引き合いに出したのです。天使が語ったメッセージに従わなかった者たちが滅んだと。そこでこう言います。3節「私たちがこんなにすばらしい救いをないがしろにした場合、どうしてのがれることができます。この救いは最初主によって語られ、それを聞いた人たちが、確かなものとしてこれを私たちに示し、」、神が備えてくれたこのすばらしい救いを軽んじた場合、この救いを自らの意志で拒んだ場合、その救いに関心を払わないなら、その人には必ずさばきが来ることを警告するのです。

今日、私たちが見たのは、なぜ、ある人たちは永遠の滅びに向かっているのか？なぜ、永遠の地獄に至るのか？その理由を見て来ました。彼らの問題はただ神に対して逆らい続けているだけでなく、その人の罪に対して神が一方的な慈愛をもって備えてくださった救いを、自らの意志によって拒み続けていることです。主イエス・キリストがご自分のいのちと引き換えに備えてくださった救いを、罪の赦しを軽蔑していることにある。だから、あなたは永遠の滅びに至ると言います。

悲しい現実、あなたは神を愛するのではなく神を憎んでいる。「いや、私は神を憎んでなどいません」と思うかもしれませんが、ご自分に問い掛けてみてください。神はあなたを愛して下さり救いを備えてくださった。でも、あなたはその神を愛することも、恵みに感謝することもしません。どうしてそんなあなたが神を愛していると言えますか？神に逆らうことを行い続けてそれで「良し」としているあなた、神が「してはならない」と言われることを平気で自ら進んでしているあなた、なぜ、神を愛していると言えますか？あなたがそのように認めたくなくてもあなたの生き方は神を憎んでいることを明らかにしているのです。だから、神のさばきが下るのです。

今日私たちがこのみことばから学ぶことは神の警告です。すべてのことをご存じである神は、ご自分の正しさに基づいて、聖さに基づいて、すべての罪を必ずさばかれます。その罪に怒りをもっておられる神はその怒りをぶちまける時が来ます。最後のさばきのときです。でも、感謝なことに、そのさばきのときを忍耐をもって今待ってくださっているのです。チャンスを与えてくださっているということです。感謝なことに、私たち罪人にはまだ救いのチャンスがあるのです。新しく生まれ変わり罪の赦しをいただくその機会が神によって備えられているのです。でも、それをあなたが自らの意志で除くなら、あなたにはふさわしいさばきが来ます。

今日、私たちが主に対して取るべき正しい態度は、神の為にしてください。また、神が備えてくださったすばらしい救いを心から感謝していただくことです。この神を心から信じて従おうと決心することです。あなた自身の罪を神の前に心から悔い改めて、今、このすばらしい救いをご自分のものとして受けることです。そのときに、あなたはこの祝福をいただく者になります。その日が今日であることを心から願っています。救いのあるうちに、神の赦しがあるうちに、この赦しに与ることです。